

中部／食R王国からの事例報告

日本列島のほぼ中央部に位置する愛知県と三重県は、多くの食品リサイクル関連企業が活発に事業展開している地域である。農林水産省の「登録再生利用事業者」の認証件数でも、愛知県が15件、三重県が9件（2011年5月31日現在）と、全国でトップクラスの件数を誇る。自治体・業者ともに特性を生かした食品リサイクルシステムを構築。その事例について報告する。

繁栄商事

3社連携で地域密着型Rループ拡大

一廃・産廃の収集運搬 繁栄商事（三重県四日市市、山中紀幸社長、



食品リサイクル対応車両（繁栄商事）

059・345・5 県津市）と業務提携を結び、2010年5月

る。67年の創業以来、収集し、冷蔵機能を持つ「食集運搬を手掛けてきた実績を持つ。培ったネットワークを生かし、回収先の拡大を図る。この業務提携では、繁栄商事が県北勢部・マルゼンが県中南勢部を担当し、百貨店や食品工場などから食品残さを回収。これをイガ再資源化事業研究所の飼料化施設に搬入して養豚向けの液状飼料（リキッドフィード）にする。製造した飼料は、イガ再資源化事業研究所のグループ会社「トントンは1日当たり10トンの回収を目指す方針で、顧客に食品リサイクルの重要性を訴えて飼料化事業を推進していく。